

第4期第3回松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 平成30年5月30日（水曜日） 午後3時から午後4時30分まで

開催場所 松本市役所 本庁舎3階 第1応接室

出席者（敬称略）

委員 廣瀬豊（委員長）、堀内正雄（副会長）、赤沼留美子、姥貝勇、大澤好市、木次由美子、草深邦子、倉澤聡、小林修、近藤博志、角野園恵、降旗都子、宮林孝子

（欠席 古幡安志、佐藤佳子、松澤幹夫、宮下鉄）

事務局 地域づくり部長 守屋千秋

地域づくり課 課長 西澤広幸、協働推進担当課長 田村明彦、
課長補佐 廣田圭男、協働推進担当主査 小川敏由、
地域づくり担当係長 宮下拓也

1 開会

（進行 事務局 地域づくり課長 西澤）

2 新委員紹介

（事務局 西澤）

- ・町会連合会長の改選に伴い平林委員の後任として委員となった堀内委員を紹介

3 委員長あいさつ

（廣瀬委員長）

- ・年度も変わり、各地域で色々な活動が始まっている。自分の地区でも、活動の後の飲み会などで、若い人の意見が出たりして、そのようなつながりの中で、次に進めていけるのではないかと、そんなことを改めて感じている。
- ・今日は本委員会のこれからの取組みについて決めていただく会議だが、皆様の色々な意見を参考にしながら進めていきたい。

4 地域づくり部長あいさつ

（守屋部長）

- ・本日は第4期委員会の3回目として、第4期に取り組む具体的な検討課題についてご協議いただきたい。
- ・本市にふさわしい地域づくりの推進につながるようご協力をお願いしたい。

5 会議事項（議長 廣瀬委員長）

<副委員長の選出について>

- ・平林前副委員長の退任に伴い、平林委員の後任である堀内委員を新副委員長に選出

<新副委員長あいさつ>

（堀内副委員長）

- ・自分の地元でも、地域づくりと一言と言ってもなかなか難しいものだと思います。取り組んでいる。
- ・「人づくり」が町会連合会に課せられた課題であり、「子どものうちから」と思って進めているが、成果が出るまでには何十年もかかると思う。
- ・皆様のご協力をいただきながら、松本市全体が良い地域づくりができるよう、微力ながら、取り組んでいきたい。

(1) 「地域づくり推進体制」の具体的検討課題について

ア 資料・進め方の説明

（事務局 宮下）

- ・資料1に基づき説明

（廣瀬委員長）

- ・グループ毎に、前回の内容を踏まえて、やりたいことをまとめてほしい。
- ・必ずしも一つに絞る必要はない。
- ・どんなことをしたいか、どんな課題に取り組みたいか、できるだけ具体的にまとめてほしい。

イ 結論

【委員長によるまとめ】

- ・グループ討議の結果、ひとつのキーワードとして「きっかけ」ということが出てきた。その「きっかけ」を具体的なテーマとして検討していくこととする。
- ・検討に際しては、良い取組みをしている町会の視察なども行っていく。

【質疑等】

（小林委員）

- ・自分達のグループで話した町会組織の問題にはこだわりがある。組織が形がいは化している。その時どきに必要な形にしていかないと、組織の存在意義や役員をやる意義が感じられなくなる。各組織の内側から見直す機能が弱いとすれば、それを問題提起していく必要がある。

（廣瀬委員長）

- ・そのような意見を言える「場」というか雰囲気づくり、その辺りも「仕組みづくり」という視点から、「きっかけづくり」という課題の中で考えられると思う。

(小林委員)

・マッピング・コミュニケーションなどの手法も用いて話し合いをしていきたい。

(廣瀬委員長)

・話し合いの仕方は、その時の状況に合わせて考えていきたい。

ウ グループ討議の結果

<グループ1>

検討課題	参加のキッカケを検討
理由・背景	<ul style="list-style-type: none">・女性の柔軟な発想から良い活動・子ども…次世代を巻き込む。・支える人、「やってみよう！！」という人が大事
発表時の補足説明	<ul style="list-style-type: none">・男性は慣習に捉われる傾向があるが、女性は発展させる発想力がある。・桜の苗木が来たときに、町会に下ろすのではなく、子ども会で子どもに植えてもらったところ、今度はふれあい会食会などに参加したいという声が、子どもたちの方から上がっている。・子どもが来ると保護者も付いて来る。そういう「キッカケ」があると、「支えよう」という人が出てくる。町会の役員は、現在は高齢の方がやっていて、その下の世代はつながりがないが、そういう壁もなくなっていくのではないか。・そのような事例を見学に行ったりしながら検討したい。

<グループ2>

検討課題	町会の組織と運営を抜本的に見直してみよう
理由・背景	<ul style="list-style-type: none">・例年どおりの町会運営←ニーズとギャップ・新しい声（風）を受け入れる器がない。・住民が自分達が住んでいるところを考える、楽しむ土壌が失われている。 (手法) <ul style="list-style-type: none">・現場も見に行きたい。
発表時の補足説明	<ul style="list-style-type: none">・「町会」に焦点を当てた。・町会もどんどん様変わりする。住んでいる人の構成も変わるし、地域によって抱えている課題も違う。住んでいる人たちの交流の仕方もどんどん変わっていく必要がある。・言いたいことの言える風通しの良い環境は、どうしたら作れるのか。発言力の強い人ばかりが町会の流れを作ると、参加意欲がわかず、わ

	<p>くわくしない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くからの住民と新しい住民との意識が違う状況が生まれているし、古くからの伝統を守って上手くいっているところもある。 ・検討の過程では、上手くいっている現場も見に行きたい。
--	--

<グループ3>

検討課題	交流のきっかけづくり
理由・背景	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所を作っても決まった人しか来ない。 ・近所の人もよくわからない。 ・地域にどんな人がいるか知らない。 ・地域の中の人だけではマンネリ化する。 ・「こうしたい！」を共有できていない。 ・地域の魅力に気付いていない。
発表時の補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで居場所を作ってきたが決まった人しか来ない。課題は「場」ではなく、色々な人が交錯する「機会」である。 ・隣近所の人とあいさつくらいはしたい。その「きっかけづくり」をしたい。 ・地域にどんなことができる人がいるか、その顔や表情が見えるような「きっかけづくり」をしたい。 ・地域の中の視点だけでは、良いこと、悪いことも見えなくなってしまう。そういう意味では、地域の外の人との交流の「きっかけづくり」も必要 ・例えば道路に花壇を作るなど、3人集まればできてしまう。そういうちょっとしたことでも「こうしたい」ということを共有する「きっかけづくり」をしたい。 ・地域の魅力を共有することも、まだ足りない。魅力を共有すること自体が、「きっかけづくり」にもなる。

エ グループ討議時の主な発言（発表内容以外の意見）

グループ	主な発言内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・今の町会には、柔軟な発想がない。 ・女性の感性、目線が大切 ・女性は好奇心が強く、コミュニティづくりが上手 ・女性が頑張っているところは、とても良い活動をしている。 ・女性が活躍している町会活動を紹介してもらい、どう活躍しているか、周りの人はどう支えているのか、現場に見に行きたい。
1（続き）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校サポートの活動を通じて、学校や先生達と仲良くなれ、子ども達

	<p>ともフレンドリーになれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性は変なプライドがある。 ・女性が活躍すると、デリケートな問題もあるのでは？ <ul style="list-style-type: none"> →足を引っ張る男性もいるのでは？ →男性にも上手にサポートしてくれる人はいる。 ・地域みんなが支え合って生活しているが、町会の人たちは知らない。 ・若い世代と役員世代のギャップが大きい。 ・町会が何をやっているのか知ってもらう必要があるし、若い人の気持ちも大事 ・地域の課題解決にはお金がかかることもあるが、民間資金を活用できないか。地元への恩返しを考える人もいないのでは？ ・廃墟（空き家）をどう生かしていくか。 ・家庭科のミシンの授業は先生一人では大変だが、地域のおばあちゃんがいるととても助かる。おばあちゃんも良い表情で、生きがいになる。そういうことを次の世代にどうつなげていくか。 ・自分が行う事業の地域への説明会では、心配そうな顔で参加した地元の人たちが、「一番心配なのは私なのです。助けてください。」と訴えたところ、「よし、助けてやるで。」と協力してくれた。 ・最初は当たってだけで。初めは「あの若造は何をやっているんだ」という反応でも、結果を出していくと、助けてもらえる。 ・キッカケづくりをする言いだしっぺがいれば、周りからの支援が生まれる。 ・若い人たちも「良い」となれば、参加する。中高生、大学生は、面白いと飛びついてくる。やりたい若者はいるが、つながっていないのが現状 ・ちょっとしたことの仕分け人がいると、キッカケづくりができる。 ・子どもの頃から町会活動につながりを持たせる。いかにキッカケをつくるか。その点では公民館活動が大事 ・やりたい！やれる！そういう人を見つける。 ・自分は30代で町会に入った。PTAにも関わり、途切れることなくつながりができた。PTAだけでは途切れてしまう。関わり続け、その世代をつなげることが大事 ・今の子ども達は、「きっかけ」を作れない。
2 2（続き）	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は必要性があってできた組織も、徐々にニーズとずれが生じ、必要性がないのに前年踏襲で存続している組織もある。 ・そのような組織では、新しいことをしようとするとう惑がられ、結果、やり甲斐がないので役員のなり手がなくなる。

	<p>→多世代交流、子どもを巻き込むことが必要</p> <p>→行事の際に、送迎までしても、なかなか人が集まらない。</p> <p>→集まる必然性を作る必要がある。</p> <p>→発信力、企画力を誰が出していくか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やはり向こう三軒両隣の精神が大事 ・町会は中で閉じる必要はない。中だけではマンネリ化する。外からの視点、新しい風が必要。依存するためではなく、「気付き」のため。 ・福祉ひろばも、誰でも気軽に寄ってゆっくりできる場所という当初の理念が失われ、単なるサークル活動の場になってしまっている。 ・担い手がないのではない。手を挙げる人がいない。 ・今年初めて、次期町会長含みで女性に役員をお願いしたら、引き受けてくれた。声をかけるということが大事 ・マンションに住む人には、人付き合いが面倒という人が多い。もっと簡単に考えて、あいさつ程度から始めればよい。 ・地域にどんな人がいるか知ることも大事 ・町会役員をやったことが、地域の人に声をかけるきっかけとなった。
--	---

(2) 今後のスケジュールについて

ア 事務局説明

(事務局 宮下)

- ・資料2に基づき説明

イ 結論

- ・事務局案のとおりとし、「地域づくり推進体制」検討の具体的な進め方については、次回話し合う。

(3) 平成29年度第1回・第2回委員会議事録の確認とホームページへの掲載について

ア 事務局説明

(事務局 宮下)

- ・資料3に基づき説明

イ 結論

- ・修正後の議事録をホームページで公開する。

(以上)